

# 報 会 うでまくり

一般社団法人  
福島県女性経営者プラザ

## さらに素敵な女性経営者に！

福島県女性経営者プラザ

会長 上石 美代子



私ども福島県女性経営者プラザ(FJP)にとつて基幹事業となった「女子学生懸賞作文」も、昨年12月

無事に3回目の表彰式を終了しました。皆様お忙しい中、ご出席を賜り本当に有難うございました。回を重ねるごとに、趣旨にご賛同して下さる企業も増え、13社からご協賛をいただき本当に嬉しい限りです。みなさまの厚い思いをしっかりと受けとめ次回へ繋いで行かなくてはと思っております。また、会員の皆様の表彰式でのパワーはいつも素晴らしいです。いざと言う時は、きりつとして難なくことをやりこなすFJP魂です。お疲れ様でした。

毎年、受賞された学生の皆様とお会いして感じることは、作文も勿論、素晴らしいのですが、お一人おひとりがとても素敵なのです。挨拶も大変素晴らしく、感動します。この素敵な女子学生達が将来立派な社会人となり、活躍されることを、我がFJPも心から応援して参りたいと思います。

FJPも今年、設立22年目を迎えます。女子学生のお手本になれるよう、私たちが益々、素敵な女性経営者を目指さなければなりませんね。

最近、私が書店で目にしたものに、ニッポンの社訓はすごい！今日から実践「できる企業に学ぶ仕事のオキテ」という本があります。その中から社訓を何点かご紹介いたします。「創る・楽しむ・わくわく

### ◆FJPの目的◆

- ① 女性経営者としての資質向上
- ② 次の女性たちのための風土づくり
- ③ 共同事業の開発
- ④ 地域・社会への貢献

させる」江崎グリコ、「男性はどぶろくで気晴らしができるが、女性や子どもには楽しみといえるものがない。なにか生活に喜びと潤いを届けたい」亀田製菓、「やってみなはれ」サントリー、「人を愛し、国を愛し、勤めを愛す」リコー、「世界から飢餓と貧困を撲滅する」ゼンショー(すき家ほか)、「ケチ道に徹せよ。一、生き金を使い無駄金・死に金を使うな。一、見栄を捨てよ。一、他人に迷惑をかけるな。一、儲からぬことはするな」吉本興業、「努力して楽しい」ソフトバンク——面白く、なるほどという社訓です。是非参考にしてみてください。

FJPは、皆様の協力によつて事業を進めておりますが、事業が目標に向かってうまく進んでいるか、会員が望む会として活動しているか、会員のコミュニケーションがうまくとれているか、会員を増やすにはどうすれば良いか…など、会員の皆様と意思の疎通を図りながら検討して参りたいと思っております。一年はあつと

### ●うでまくりとは

古い川柳に「朝雨女の腕まくり」というのがある。天気の良い朝にバラバラと急に来る雨は、女の腕まくりと同じで意気込みだけ、大したことはない…という意味。FJP、女の腕まくりの真価はこれから！

いう間に過ぎて行きますが、その中でも時々立ち止まり、検証をし、更に良いFJPを目指していきましょう。素敵な女性に天井はありません。会員の皆様、さらに素敵な女性経営者になりませんか！「素敵な女性経営者」になりたい方の入会もお待ちしています。



第3回女子学生懸賞作文表彰式記念撮影にて受賞者の皆様と

夢—ふくらみます

# 第3回女子学生懸賞作文発表会・表彰式

◆2016年12月3日(土) 13時  
◆福島民報社3階(ゴールドの間)



千葉悦子審査委員長



銀賞  
安西美穂さん  
(東京外国語大学)



銀賞  
鈴木敦子さん  
(津田塾大学)



金賞  
佐藤季さん  
(福島大学大学院)

第3回を迎えた女子学生懸賞作文発表会は、受賞者の皆さんを中心に、共催の福島民報社、後援の福島教育委員会、特別協賛企業の福島県中小企業団体中央会、三井生命保険(株)、アチーブメント(株)、(株)アポロガスなど約70名が出席。佐藤和江実行委員長、紺野涼副会長の司会進行により、盛大に執り行われました。テレビ取材等報道関係は5社。来賓は福島県教育委員会はじめ10名のご列席を頂き、県教育長鈴木淳一様から来賓を代表してお祝詞をいただきました。

**総評** 応募総数31篇、受賞者8名。千葉悦子審査委員長が、第3回の審査について、次のように講評を述べました。

①上位受賞者には福島大学、早稲田大学など全国の女子大生からの応募が顕著であった。これまでは地元の特門学校などが多かったが、サイト上で告知効果もあって、全国各地から

の応募がみられた。確実に知名度が広がっていると感じる。

②現在学んでいる知識やスキルを活かして地域の力になりたいという志向性は増々強くなっている。福島県で、あるいは生まれた場所で夢を実現したいという思いが強い。地域コミュニティを意識している学生がいるという現実が大変心強いと感じた。

③知りたいこと、やってみたいことが実によく描かれている。熱意もやる気も十分伝わってくる作品が多かった。半面、事業計画を実現するために、資金はどうするか、いつまでに何をやるかなどのロードマップの検討となると、みなやや不十分であった。受賞者が考えたアイデアや事業はぜひとも実現してほしいものばかりである。必ず将来実現するという強い思いを持ち続けてほしい。これから現実的な問題や課題に向き合っていく中で、ロードマップもより具体的に明確になっていくと思う。

受賞者のご家族、学校関係者、特別協賛企業の方々から、「大変感動しました。これからも継続してほしい」という声をたくさん頂きました。第4回開催へむけて—夢、ふくらみます。



▲感動を伝える上石会長



▲来賓を代表して挨拶する鈴木教育長



▲司会の紺野副会長



# 夢、あるよね!

—私は、女性経営者になってこんな仕事をやってみたい



受賞者の決定は、一次審査を通過した16編の作品について審査員による厳正なる公開審査会を行い、各賞が決定されました。金賞1名(賞金30万円)、銀賞2名(賞金5万円)、奨励賞5名(図書カード1万円)、特別賞:さくら賞1名、三井生命賞1名、倫理法人会賞1名が決定し、各提供企業・団体より多彩な賞品が提供されました。受賞者は次の通りです。

## 【金賞】

★佐藤 季 (福島大学大学院) 『三姉妹で創る』

『総合コミュニケーション施設—小豆庵』  
時代の変化とともに希薄になってきた人間関係の中で、押しつぶされそうになっている子どもや乳幼児とその親、老人たち:社会的弱者の存在に気づき、姉妹がそれぞれ持っている知識や資格を生かして総合コミュニケーション施設『小豆庵』を実現し経営する。  
正義と勇気を感じさせる。地元『小豆洗』の字名を活かすセンスが光る。

## 【銀賞】

★鈴木敦子 (津田塾大学)

『インターンシップ・ホームステイ—企画運営事業で福島を活気や笑顔あふれる街に』

インターンシップとホームステイを上手に結合させ、活気あるマチづくりを展開させるアイデア。資金計画や事業化のロードマップを具体的にかためてゆけば、面白い事業になるかもしれない。福島を活気や笑顔あふれる街にと訴えた事業プランは審査員の共感を呼び、特別賞もあわせて受賞した。(同時受賞:さくら賞、倫理法人会賞)

★安西美穂 (東京外国語大学)

『おじいちゃん・おばあちゃんの家』

ふくしまにある空き家を活かしてつくる民宿。それも、地元のおじいちゃんやおばあちゃんの知恵を生かして心を込めたサービスを提供する。これは、すぐにでも実現できるすばらしい事業プランであり、地域の皆さんとの信頼

## 【奨励賞】

★國武桃子 (大阪大学)

『誰もが活躍できる社会へ』

単なるコトバだけでなく、障害のある人も「一億総活躍社会」のほんとうの一員として活躍できるように、福島県に、「障害者支援複合施設」を作りたいと計画している。高等学校と就労所を兼ねた施設を実現し、福島県から共生社会をひらいてゆくといいという挑戦。(同時受賞:三井生命賞)

★大越美穂 (郡山女子大学)

『子どもたちの夢を支える』

お弁当屋さん

塾に通い自己実現を目ざす子どもたちを食事の面からサポートしたいと手づくりのお弁当屋さんを起業する。子どもたちの健康づくりに寄与するのはもちろん、働いているお母さんたちへのバックアップにもなる堅実でやさしい計画である。

★鈴木奈津美 (今泉女子専門学校)

『着物スニーカー』

2020年の東京オリンピックを見

据え、日本の着物文化の美しさ、奥深さをアピールするために文字通り着物プロフェッショナルとして自分を高め、トータルなサービスのできる着物スニーカーを実現するという夢を是非実現させてほしい。

★大滝真優 (福島工業高等専門学校)

『外国人労働者による』

介護施設の設立

外国人労働者の能力を活用した介護施設の起業プラン。日本で働いている外国人女性たちは、日本語が話せる、接客業の経験から高いコミュニケーション能力を有している。女性たちのキャリアプランが形成できると評価してのアイデア。

★梅木香芳 (会津大学短期大学部)

『農業を魅力的なビジネスに』

現在、ほとんどが「家」単位で行われている農業を集約化し、生産だけでなく加工や流通販売までを行う総合事業を立ち上げる。このビジョンは将来の福島にとっても必要なことであり、実現すれば時宜を得た一大ビジネスになるのではないだろうか。福島の農業の未来を拓くか!



■講師プロフィール

2005年広島市安佐南区に整体院を開院。2010年古方美容法、2013年バランストレーニング&ヒモトレ=YASUTAを開発。バランスケア整体施術、バランスからだ塾の他に全国で「バランスからだ塾」や「バランストレーニング&ヒモトレ講習会」を行う。

今回は、『バランスからだ塾』や「バランストレーニング&ヒモトレ講習会」を展開している安田政之さんをお迎えし、会員の皆さんにバランストレーニング&ヒモトレをご指導いただきました。1本のひもを体に巻くだけで、体の動きが軽くなり、コリや痛み、だるさが消える。そんな不思議なトレーニング法が「ヒモトレ」です。これによって、「より動きやすい、疲れにくい、ケガをしにくい」からだづくりが出来るのか…参加した会員の真剣な表情をご覧ください。

9月例会 9月12日(火)  
二本松市・陽日の郷あづま館  
講演会——より動きやすく、ケガをしないからだづくりを  
講師II安田政之氏  
(バランス身体塾)

紅葉の季節——理事会、定例会は場所も内容も趣向を凝らしての開催となり、多くの会員が出席しました。中央会の黒江さん、三井生命の営業担当の皆様にもご参加いただき、定例会終了後は芋煮会を楽しみました。中でも、澤上交流広報副委員長手作りの芋煮鍋は絶品！オードブルセット、おにぎりセットもとても美味しかったです。会員が力を合わせて準備するという素晴らしいさにあらためて感動した一日でした。

10月例会 10月25日(火)  
フォレストパークあだたら  
ふくしま県民の森(大玉村)



12月の会場は、会員の織井さんが経営するライトパブ「ドリーム」。店内はクリスマスの飾りつけがされ、ワイン、カクテル、シャンパンで大人の空間を演出。お酒大好きな会員も多く、時間を忘れての歓談となりました。恒例の千円プレゼント交換、地元出身の女性によるピアノ演奏もあり、楽しんでもらいたいという織井さんの気配りに感謝！参加できなかった会員の皆様も、次回は必ず参加してくださいね。

12月例会 12月20日(火)  
華やかに…大人のクリスマス  
二本松市・ドリーム



福島市で知る人ぞ知る蕎麦屋といえは「峰亀」です。現在は3代目が先2代の魂を受け継ぎ平野と成川に店舗を有している。初代は大正時代に鎌倉のそば屋で修行を積み、昭和11年に縁あって福島の地に根を張ったそう。味にうるさい鎌倉の客を満足させてきた初代の天ぶらの揚げ方や蕎麦の喉越しに福島人の喉を唸らせ一気に大評判となったという。細く、長く、粘り強くをモットーとし、「味に頂点無し、研究は一生」を座右の銘として暖簾を築いてきたそう。そうか、道理でいつも店内は満席で、暫し待たねば蕎麦にありつけない。季節ごとにメニューも豊富だ。

ふくしまの自慢④ 菅野喜久江  
福島に創業80年のそば屋あり  
笑門そば「峰亀」

そうだ、今夜はふぐ御膳を頂きに待ち時間覚悟で出かけよう——。

# 29年1月例会 1月17日(火) 新年会

福島市・峰亀本店

2017年(平成29年)最初となる1月例会は新年会を兼ねて実施されました。参加者は24名。会場は、事業委員会の齊藤可子さんの経営する峰亀曾根田本店。数日前の大雪がまだ残る福島もこの日は晴天に恵まりました。

開会にあたり、まずは恒例の佐賀裕子さん(総務委員会)による祝舞いの披露があり、続いて三田公美子監事の乾杯の音頭で楽しく豪華な新年食事がスタートしました。佐賀会員は藤蔭流三藤会師範・藤蔭静香としてこの道40年、日本伝統芸能のひとつでもある日



▲新春恒例 佐賀裕子会員の祝舞「夫婦福々舞」

本舞踊をえています。

会の後半は、社会人落語家の酒飲亭いさん(本名・小橋伸二氏)を招いて落語を堪能して新春初笑い。小橋さんは大学時代に落語研究会に入会して「酒飲亭いさん」となり、現在「うつくしま芸人会」の会長。平成19年に「ふくしま素人落語の会」を仲間と設立し、毎年100席以上の落語口演を行っているとか。今回も笑いは健康の元ということとで、〆オレオレ詐欺〆や〆なりすまし詐欺〆を題材とした落語で多いに笑いを誘い楽しませてくれました。

## ■会員一人二言■

——今年の抱負——

- 菅野喜久江〆笑顔で。高揚する気持ちのコントロールを上手に
- 古川節子〆年齢に甘えず
- 高橋恵美子〆笑顔で健康。体重マイナス10キロ
- 齊藤可子〆当たり前の幸せを当たり前に考えられる人に
- 山本欣子〆よそ者の強みで
- 三田公美子〆「ばっちゃん〆子どもたちが立ち直る居場所」のばっちゃんをめざす
- 瀬戸孝子〆本業以外にやりたいことを探す

織井久美子〆3年検診クリア、もっともつと健康になる

佐藤和江〆雇用など暗い話も多いので、明るいう気持ちで

横山りつ子〆昨年は坐骨神経痛に悩まされ、今年は脱医者で

伊東英子〆勇気をもって会に参加して、そして元気になりたい

長尾千代美〆息子が後継者に。一人で生きてきた自由人を失わず

澤上春江〆70歳を迎えるので一度リセットしたい。この夏イタリアに短期留学する予定

長沢美紀子〆美しいものに出会い、心と体を健康に

野地千尋〆全て前向きに

菊池美保子〆心配しないで、何事もスラッと進めていきたい

会田和子〆サボラス、アキラメズ、燃焼するまで

紺野涼〆未夏Withを研究所に吸収、長女が後継者に。大家族となり生活スタイルが大きく変わるが、自然体で行きたい

上石美代子〆娘が跡継ぎになると宣言、嬉しい反面緊張感がある。会社を、引き継いでもらうものをきちんとしておきたい

## ●コーヒータイム

商売の確信をつく〆夫婦福々舞 誰もが知っている「損して得取れ」——実は、これって結構奥が深いのです。合の手なしでご紹介しましょう。

「夫婦福々舞」 新内幸太夫作詞

よく見る見つめる見極める

よく聞く聞き込む聞き分ける

そして得とる心意気商一筋春夏冬

オトどっこい秋がない

種もまかねば芽も生えやせぬ

商売やソレまけ種まけ愛きようまけ

女房お福も恵比須顔

きりりと結んだ固い絆の羽織のひもに

かける思いはわが夫

夫を支える大黒さん

福と福とのその仲に

大きな福が生まれ出で

大きな富と幸せを

人に与えて徳を積む

恵比寿、大黒笹もつて来い

福助お福 福もつて来い

福助お福は福の神



# 会員メッセージ

## 還暦を迎えて思う

### これからの生き方

長沢美紀子(総務委員会)  
(東保温板金工業所代表取締役)



今年、心も体も健康に過ごしたいです。今まで仕事や子育てで無我夢中で過ごしてきましたが、もうそろそろ自分の時間を持つてもいいのかなと思えるようになりました。自分自身が段々と守りの姿勢に入ってきているのも徐々に感じるようになり、これでは「いかん」と思ったのも一因です。60代はそういった意味では一番いい時だと言われ、まだ体力も気力もあるうちに自分のやりたいことを少しでもしてみようかなと考えています。そのために心と体が健康であるような過ごし方は大事だと感じます。美しいものを観て・聞いて・一番苦手な運動もして、頭の錆も落としてと、やるべきことが沢山あるので、さてどこから…と頑張っています。欲張りすぎても結局できないので、まずは体力づくりに励んでいます。

## 新入会員から...

そんなことをしつつ、美術館めぐりでもしようかと考えています。最初からアクセル全開ではできないので、ちょっとスローペースで始めてみます。FJJPの諸先輩をお手本に。

川崎葉子(事業委員会)  
(株式会社夢企画代表取締役)



3・11の地震・津波・それに続く放射能漏れ事故により、ふるさと双葉町を追われて、北陸の福井県で5年間の避難生活を送っていました。

昨年4月より、いわき市に家を建て、会社「(株)夢企画」も再開しました。避難前の数分の一ではありませんが、学習塾部門(小・中・高生)、カルチャー部門の部(「日本舞踊」「かっぱれ道場」他)から再始動しました。ゼロというよりむしろマイナスからのスタートですが、周りの皆様に助けて頂き、しっかりと前進してまいります。出戻りですが、会員の皆様よろしくお願いたします。

## 各委員会 後期活動報告

### ○総務委員会 委員長 菊池美保子

女子学生作文事業は協賛企業も増え、規模がどんどん大きくなっています。この事業を次に繋げるように、一般社団法人としての意識をしっかりと持って、出席率の高い総務委員の皆さんと協力して活動しています。

### ○事業委員会 委員長 瀬戸孝子

「女子学生懸賞作文」も大きな基幹事業となってきました。皆様のご協力に感謝致します。今年度の反省を踏まえ、次年度も益々充実した例会を目指して参ります。引き続き二人でも多くの参加をよろしくお願いたします。

### ○交流広報委員会 委員長 会田和子

後半戦は芋煮会でリフレッシュスタート。作文募集の応募作品審査や授賞式典ではメディア対応を。クリスマス、新年会も充実した会合となり、残る課題は新たな会員の獲得です。

## 編集後記

TVから童謡が聞こえる。誰かの鼻歌? 驚き、愛犬だった——春日和(会田) 世の中が厳しい環境ですが、FJJPの会員は平和の心と純粋な情熱を! (澤上) ゆうゆうと、いつも輝くFJJPに、腕をまくって仲間を待っています。(横山)

### ●女子学生懸賞作文協賛企業より、お礼のお手紙をいただきました。

#### 前略

本日は第三回女子学生懸賞作文表彰式にお招きいただき、ありがとうございます。「いま時の学生は」などと言っている自分が恥ずかしいほど見事な作文で、しかも受賞者の皆さんの挨拶も大変立派で感動いたしました。

弊社も毎年十数名の営業職を採用しておりますが、その半数以上が女性という年が増えてきて、最近の学生の女子力に驚かされる事が度々あります。

まだまだ保守的な福島県内で活躍されている女性経営者の皆さんのご苦労は計り知れませんが、女性視点の経営を取り入れることが必要なのは周知していても、今の経営者にはどうしたらいいのか分からないというの事実かもしれません。女性が職場で活躍できる環境を如何に気づいていくか、またどう女子社員を動機づけしていくか、日々悩みながら試行錯誤しております。

今度は弊社女子社員とFJJPの皆様との交流の機会があればと思います。是非ご検討いただければと思います。今後ともFJJPの会員の皆様のご活躍をご記念申し上げます。早々

福島トヨタ自動車株式会社  
専務取締役 西村 毅